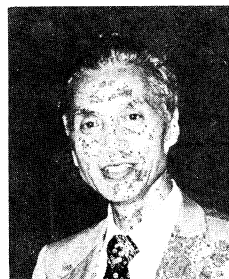


水理実験センター長 4 年間の思い出

第 2 代センター長 吉野正敏



「水理実験センター報告の第10号を記念して、何か思い出なり、今後の問題点なりを書いてくれ」という申出を受けた。そこで紙面を少々けがしたい。

何事でも、第2代というのは、初代の基礎づくりの苦勞に比較すれば“気易いもの”言えおしかりを受けようが、私としては、センター長の4年間は苦しさよりも楽しさの方がまさった。家族的な空気の中で、大型水路や観測塔の観測・測定の結果がまとまってゆくのは嬉しいことであった。この4年間は、装置の大きさや、得られるデータの量の莫大さに比較して、それを動かし、データの整理をする人員の少なさが何よりの難点であったが、とにかく成果が次第にあがって、国の内外の注目をあびるようになった時代と位置づけられよう。もし、科学史家が後世、“水理実験センター発展の歴史の時代区分”をするならば、このような時代と位置づけるだろうと思う。

その証據は、このセンターの成果が、センター員の研究論文としてばかりでなく、学群の卒業研究、修士課程の研究論文、さらに、いくつかの学位論文としてまとまってきたことによる。そのいくつかは Environmental Research Center Papers として刊行された。これはセンター長としてまことに嬉しかった。

内外にセンターの存在が知られ、外国からの見学者が多かった。成田空港から直接、センターに来てすぐにまた他へ旅行を続けるという外国の研究者も現われ、まさに、世界の筑波大学「水理実験センター」の感が強くなった。また、中国科学院のようにセンターの観測塔や水収支・熱収支観

測設備、記録装置など、そのまま同じものを建設しようということさえてきた。日本名は「水理実験センター」であるが、英名は「Environmental Research Center」で、英名の方がわれわれの目的をよく表現しているむきもある。つまり、熱収支や水収支の観測をやっているところは世界にたくさんあるが、いずれも短期間である。あるいは、天気の良いときだけの観測である。長期間にわたり、毎日、毎時の記録をとることは、人間や動植物の環境を考える場合、不可欠のことで、この点が純粹の微気象学の観測と異なるところである。しかし、そのためには、正月も盆も暮も、途切れることなく観測値をとらねばならない。これは容易なことではない。しかし、それをわれわれはやっているのである。

この4年間、心残りの最大は、実験棟が予算化できなかったことである。“実験センター”と言いながら、実験棟がなく、いまあるのは研究棟だけである。これでは今後の健全な発展が望めない。貴重なさまざまな実験装置や施設が、風が吹けばほこりにまみれるようなプレハブの中にあることは、実験の精度をあげるためだけでもさげねばならない。もちろん、新しいテーマに取り組むためには、整備された実験棟が必要なことは言うまでもない。実験棟の建設が、今後の最大の課題である。

外国や日本国内からの長期・短期の研究者の滞在接受入れ、協同研究を強力に推進することも重要である。これまでも、アメリカ合衆国、アフガニスタン、中国、韓国などの研究者が研究を行って成果をあげたが、まだ充分とは言えない。

この大型水路や、観測塔関係の施設を使って、他大学や、他の研究機関などの研究者との協力体制の確立は、積極的に取り組む必要がある。

それから、助手・技官の数の不足が、特にセンターの活動に影響している。このセンターのように小さいセンターでは、1人の増減の持つ意義は

大きい。少くもセンター発足当時の人容にもどって、活動を向上させてもらいたい。

以上のような課題がかなえられれば水理実験センターの次の10年は、これまでの初代センター長の6年、2代目4年の計10年にも増して、輝かしいものとなる。

水理実験センター運営委員会歴代構成委員

- 1975年度 井口正男（長）、市川正巳、菅野三郎、野口正三、町田 貞、山本莊毅、山本光夫、吉野正敏
- 1976年度 井口正男（長）、市川正巳、菅野三郎、野口正三、町田 貞、山本莊毅、山本光夫、吉野正敏
- 1977年度 井口正男（長）、市川正巳、榎根 勇、菅野三郎、古藤田一雄、野口正三、山本莊毅、山本光夫、吉野正敏
- 1978年度 井口正男（長）、安達 勤、市川正巳、榎根 勇、菅野三郎、古藤田一雄、中川徳郎、吉野正敏
- 1979年度 井口正男（長）、榎根 勇、古藤田一雄、椎貝博美、鈴木光剛、高山茂美、辰巳修三、吉野正敏
- 1980年度 井口正男（長）、榎根 勇、古藤田一雄、椎貝博美、鈴木光剛、高山茂美、辰巳修三、吉野正敏
- 1981年度 井口正男（長）、榎根 勇、古藤田一雄、新藤静夫、鈴木光剛、砂村継夫、西沢利栄、吉沢能政
- 1982年度 吉野正敏（長）、榎根 勇、古藤田一雄、新藤静夫、鈴木光剛、砂村継夫、西沢利栄、吉沢能政
- 1983年度 吉野正敏（長）、井口正男、古藤田一雄、新藤静夫、鈴木光剛、高山茂美、西沢利栄、西村仁嗣
- 1984年度 吉野正敏（長）、井口正男、古藤田一雄、新藤静夫、鈴木光剛、高山茂美、西沢利栄、西村仁嗣
- 1985年度 吉野正敏（長）、榎根 勇、古藤田一雄、新藤静夫、鈴木光剛、砂村継夫、西沢利栄、西村仁嗣
- 1986年度 河村 武（長）、榎根 勇、古藤田一雄、佐藤政良、新藤静夫、砂村継夫、西沢利栄、西村仁嗣
- （長）はセンター長、そのほかは、あいうえお順